

【V 考察】

「ボランティアの受入数」について

令和2年度ボランティアの受入数（全体）は、令和元年度の57.5%となった。ボランティアの需要はあるものの、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、授業時数の削減や感染リスクの軽減のためにボランティアの受け入れが減少した結果と考えられる。

各校で、感染対策を講じ、活動内容・方法を工夫しながら児童生徒の支援のためにボランティアを受け入れており、今後も継続して活用の工夫を図っていくことが望まれる。

- 学習支援ボランティア（令和元年度比 57.9%）
- 読書活動ボランティア（令和元年度比 56.8%）
- ノートテイクボランティア（令和元年度比 2.8%）
- 外国出身者支援ボランティア（令和元年度比 91.7%）
- 家庭教育支援ボランティア（令和元年度比 31.1%）
- 病院訪問学習支援ボランティア（令和元年度比 100.0%）

「体験活動」について

体験活動の実施状況（回数・時間）についても、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は大きく減少している。

（令和元年度比 実施回数：60.7%、実施時間：59.5%）

- 地域連携担当教職員が学校の窓口となって地域での活動をコーディネートし、体験活動等を進めている取組もあり、今後も継続して、地域連携担当教職員を中心とした地域と学校の連携・協働が図れるように努めていくことが望まれる。
- 講師との打合せの時間確保を課題としている学校も多いが、地域学校協働本部事業等を実施し、コーディネーターがいる地域においては、その連絡調整機能により、スムーズに体験学習等が行われている地区もある。

「ボランティア活動」について

ボランティア活動の実施状況（回数・時間）についても、新型コロナウイルス感染症の影響により、「ボランティア受入数」「体験活動」と同様に、令和2年度は減少した。（令和元年度比 実施回数：78.6%、実施時間：45.1%）

- 例年、地域から学校へ依頼のあったボランティア活動なども減少し、地域におけるボランティア活動の機会が減少している。
- 新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、児童・生徒や保護者、関わる地域の方型が安心して活動できるよう、内容や方法等を工夫していくことが望まれる。